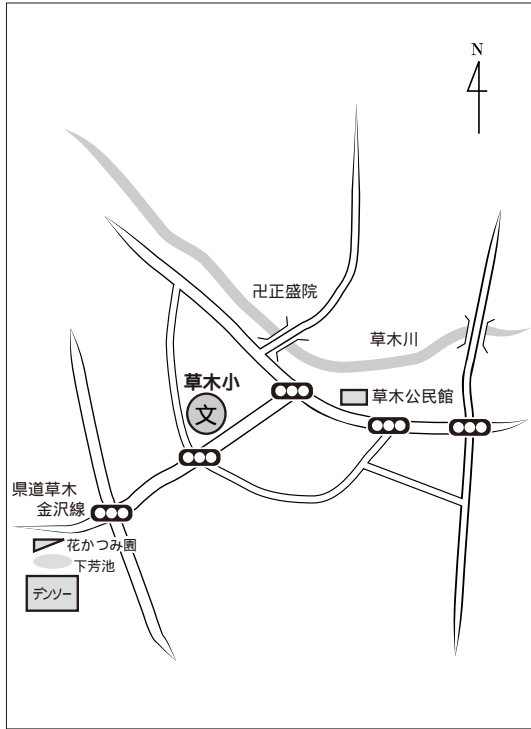


シリーズ

阿久比を歩く ⑨



元気に遊ぶ草木小の子どもたち

小学校正門付近に小さな色とりどりの自転車が並ぶ。子どもの声が聞こえるので、学校の中に足を踏み入れる。個人懇談会のため、学校の授業は半日で終了。一度家に帰った子どもたちがまた学校に出掛け、校庭で楽しそうに遊ぶ。

おじさん二人がぶらぶらしているので、物珍しそうに子どもたちが私たちを眺める。話を聞こうと近づくと笑顔で「こんにちは」と元気よくあいさつが響き、その場は歓迎ムードに変わる。

「うちの学校、大きなクスノキがあるから見てよ。子どもたちに手を引かれる。案内された場所は「ゆめひろば」。正門から入ってすぐ右手にあり、「草木っ子」の憩いの場である。クスノキをはじめ、イチヨウやケヤキなどの木が茂る。ベンチも整備され、自然観察ができる空間となっている。

樹齢約二百年。クスノキは手で「ピース」の形を取るように二股に伸び、「くすじいさん」の愛称で呼ばれる。「すこい木だね」。私たちがほめると子どもたちの顔がほころぶ。多少傷みが目立ち、しわが増えてきているようだ。草木っ子自慢のくすじいさんは、学校から巣立った多くの子どもたちを静かに見守り続けてきた。寒い日であったが、手をかざすとぬくもりが感じられた。

「次は飼育小屋に行こうよ」。手を引かれるままに飼育小屋へ向かう。「何か珍しい動物がいるの?」と友

あ
ぐ
い
ぶ
ら
り
旅

施設かいわいを行く(草木小中学校)



「草木っ子のいこいの場「ゆめひろば」」